

第106回宇宙政策委員会・第33回基本政策部会合同委員会

1. 日時：令和5年5月26日（金） 9：00－10：30
2. 場所：中央合同庁舎4号館共用1208特別会議室
3. 出席者
 - (1) 委員
 - ・宇宙政策委員会
後藤委員長、遠藤委員、片岡委員、櫻井委員、篠原委員、白坂委員、鈴木委員
 - ・基本政策部会
白坂部会長、石田委員、臼田委員、漆間委員、片岡委員、栗原委員、櫻井委員、篠原委員、中須賀委員、南委員
 - (2) 事務局
内閣府宇宙開発戦略推進事務局
河西事務局長、坂口審議官、滝澤参事官、加藤参事官、齊藤参事官、藤田参事官、上野参事官
 - (3) オブザーバー
宇宙航空研究開発機構（JAXA） 山川理事長、石井理事
 - (4) 関係省庁
内閣官房国家安全保障局：徳永審議官
内閣官房内閣情報調査室内閣衛星情報センター管理部総務課：高橋課長
総務省国際戦略局宇宙通信政策課：小川課長
文部科学省大臣官房：永井審議官
文部科学省研究開発局宇宙開発利用課：上田課長
経済産業省大臣官房：恒藤審議官
防衛省防衛政策局：安藤次長

4. 議事要旨

【第1部（第106回宇宙政策委員会・第33回基本政策部会合同開催）】

- (1) 文部科学省より、資料1-1～1-5に基づき、イプシロンロケット6号機打ち上げ失敗の原因究明報告及び、H3ロケット試験機1号機打ち上げ失敗の原因究明状況、試験機2号機計画に関する方向性についての説明を行った。委員から以下のような意見があった。（以下、○委員からの意見）

○H3ロケット試験機2号機に関する方向性について、賛同する。

○ALOSを搭載しない場合、ロケット性能確認用ペイロードを搭載することになるが、他の衛星をピギーバックできるのか検討して欲しい。

- (2) 事務局より、資料2-1～2-5に基づき、宇宙基本計画（案）と宇宙基本計画工程表

(案) についての説明を行った。委員から以下のような意見があった。

(以下、○委員からの意見)

- 宇宙基本計画（案）は、具体的に何に取り組むべきか記載するなど、内容も充実しており、非常に前向きで、世界と勝負できる内容になっている。
- 工程表（案）は、基本計画との繋がりが明確化された点や、いつまでに何を行うのか、具体的に記載されるようになっている点など充実した。今後、概算要求を経て、12月の工程表改訂に向けて更に具体的な取組を記載するようにして欲しい。
- 今後、施策を進めていくことが重要。あわせて、どのように実行していくのかという観点も重要。
- 計画等の策定にあたり、関係府省の連携は重要であった。引き続き、施策を進めていく際にも連携をおこなって欲しい。
- 計画について世界の潮流を踏まえながら、柔軟に運用するようにして欲しい。
- 国際連携も重要、官民それぞれのコミュニティで我が国の宇宙政策に関して世界への発信を進めることが重要。
- 「スペーストランスフォーメーション」といった言葉も活用し、わかりやすく、官民での機運醸成を行っていくべきである。
- 準天頂衛星の11機体制の構築について着実に進めて欲しい。
- 予算に必ずしも縛られない施策もある。優先順位をつけてスピード感を持って取組みを進めて欲しい。

【第2部（第106回宇宙政策委員会）】

(3) 事務局より、資料3-1、3-2に基づき、宇宙安全保障構想（案）についての説明を行った。委員から以下のような意見があった。（以下、○委員からの意見）

○軌道上サービスは、将来的には様々な活用が期待される技術であり、産業競争力や衛星の機能向上に資するものであることに留意して欲しい。

○安全保障構想のアーキテクチャを整理したことは大きな一歩である。こういった内容を踏まえて、12月の工程表に具体的な取組の時期などを明示するように、関係省庁で検討を進めて欲しい。

○基本計画と安保構想との関係性や位置づけをわかりやすく示すことが大切ではないか。

○技術戦略の策定に期待している。その際に関係省庁と横断的に議論を進めていくことが重要。

以上